
東北地方太平洋沖地震についてのお見舞い

3月11日に発生した未曾有の大地震により、多数の犠牲者が出たこと、依然行方不明者が多数であること、被災地が大変広域に渡っており、復興には相当の時間を必要とすることなど、本当に大変な事態になりました。

まずは、このニューズレターを受け取られている方々をご無事であることを何より願っています。大規模な震災で、ご家族・ご親戚・ご友人が被災された会員も少なからずおられると思います。僭越ですが、お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りいたします。被災された会員の皆様、お見舞い申し上げます。

一日も早く、平穏な日が訪れ、通常の教育・研究活動にもどることができますよう、お祈り申し上げます。

日本教育メディア学会 会長
久保田 賢一（関西大学）

2010 年 第 2 回理事会議事録

1. 開催日時 2010 年 12 月 4 日（土） 14:00～16:00
2. 場 所 関西大学東京センター
3. 出席者 久保田賢一会長、鈴木克明副会長、小平さち子副会長、浅井和行、生田孝至、Jung Insung、小笠原喜康、岡部昌樹、影戸誠、黒上晴夫、黒田卓、中川一史、中橋雄、村野井均
(敬称略)
4. 議事
 - (1) 2011 年度（第 18 回）年次大会について
 - ・国際基督教大学での開催概要が、Jung Insung 理事から説明があり検討された。
 - ・年次大会における課題研究、基調講演のテーマについて議論された。
 - ・年次大会論集の印刷形式について議論され、冊子及び CD-ROM で配布することとなった。
 - (2) 2010 年度年次大会、ICoME2010、ICoME2011 について
 - ・第 17 回年次大会、ICoME2010 の会計について鈴木克明副会長より報告された。
 - ・International Journal の進行状況について鈴木克明副会長より報告された。
 - ・ICoME2011 の日本側対応について確認された。
 - (3) 学会関連論文の電子化について議論され、著作権の扱いについての方針をかためた。
 - (4) 名誉会員内規について議論された。
 - (5) 教育メディア研究投稿および査読について議論された。
 - (6) 『博物館情報・メディア論』の委員委嘱等について計画が報告された。
 - (7) 視聴覚協会井内賞について、複数候補者の扱いについて審議・了承された。

- (8) 学会ホームページについて充実化の方針が示され方法が検討された。
- (9) 学会会員名簿について、会員名簿を作成、配布することについて了承された。

教育メディア学会研究会「情報教育とメディアの利活用」の実施報告

- 1. 開催日時 2010年12月11日(土)
- 2. 開催場所 東北学院大学
- 3. 実施報告

12月11日13時より、東北学院大学土樋キャンパスにて教育メディア学会研究会「情報教育とメディアの利活用」が開催された。43名が参加し、研究発表・パネルディスカッションとも活発な討議が行われた。

研究発表では2教室に分かれて、10件の発表が行われた。小学校の学級作りにおけるICT活用、大学院におけるインターンシップ、授業中に教師自身が撮影した写真による授業省察、デジタルテレビ活用研修、韓国におけるメディア教育等、さまざまな校種を対象とした研究報告があった。

「近未来の学校の情報環境とこれからの学び」と題したパネルディスカッションが行われた。中川一史氏(放送大学)から全国的な動向として知識や技能の定着を目的としたICTの活用から、表現や討論などの学習活動のプラットフォームとして情報環境をどうデザインしていくのかが問われるようになってきていることが指摘された。次に、中橋雄氏(武蔵大学)からはハードウェア面について、児童生徒1人1台に端末を配布する取り組みを関東地域での実践の中から紹介された。稲垣忠氏(東北学院大学)からは、ソフトウェア面の提案として従来のパソコン室で活用されてきたドリル学習やグループウェア等がクラウドからサービスとして提供され、児童生徒がいつでもどこでも使えるようになる可能性と、北海道・東北地域でのこれらの環境を活用した取り組みが紹介された。林向達氏(徳島文理大学)は、デジタル教科書の活用の視点から、学校現場では現状では教師の提示用のものにとどまっており、児童生徒向けの活用可能性を四国での活用事例から紹介した上で、ICT支援員等、サポートの充実をどう図っていくのかが課題として指摘された。影戸誠氏(日本福祉大学)からは、東海地域における取り組みに加えて、ハワイのプナホウ小学校の情報環境や韓国のデジタル教科書導入、シンガポールの取り組み等についての最新情報の提供が行われた。

その後の討議では、タブレットPC等の1人1台端末が思考場面にどのように効果的なのかといった質問や、一般の公立校との格差がますます広がるのではないかと懸念が表明された。総務省のフューチャースクール事業では、「協働教育」の実証実験が行われているが、これまで多くの学校で取り組まれ、広がりを見せつつあるICT活用との接点をどのようにつけていくのか、インフラの整備だけでなく、教育観・授業観の再検討も含めて大局的な検地から学校の情報環境を考えていく必要があることが指摘された。近視眼的に効果検証や普及可能性を議論するのではなく、3年先、5年先を見据えて、何が残り、何が淘汰されていくのかという視点でさまざまな方向性を検討し、トライアルを重ねた結果を共有していくことの意義を確認することができた。



稲垣 忠 (東北学院大学)
黒上 晴夫 (関西大学)

特別企画「デジタル教科書と協働教育～教室環境の創造と展望～」の実施報告

1. 開催日時 2011年2月11日(金) 13時～17時30分

2. 開催場所 金沢星稜大学稲置記念会館2階

3. 実施報告

日本教育メディア学会・企画委員会では、「デジタル教科書と協働教育」をメインテーマに、「教室環境の創造と展望」をサブテーマに掲げ、公開講演会・模擬授業・パネルディスカッションを企画した。

我が国で最初に教科書の電子教材化に取り組んだ光村図書出版株式会社の黒川弘一氏(常務取締役企画開発本部長)が「デジタル教科書の現在・未来」と題して基調講演を行いました。黒川氏は現行のデジタル教科書教材を「パラダイム転換期の教育ツール」と位置づけ、「学年や教科の枠を超えた活用」「話し合い活動の活性化」等を通して、自由度の高い授業のサポートができることを海外の事例もまじえて力説された。

また、参加者は一緒になって、金沢市内の全ての小学校に導入されている国語科の電子教材を活用するワークショップを体験した。金沢市立小坂小学校の小林祐紀教諭による模擬授業(国語科・4年教材「アップとルーズで伝える」を使用)によってイメージの共有化が図られ、清水和久氏(金沢星稜大学)の司会・進行のもと、有用性や有効性について熱い討論が行われ。

さらに、日本教育メディア学会から招聘した研究者を中心に、パネルディスカッションを行った。サブテーマである「教室環境の創造と展望」に対して、黒田卓氏(富山大学)が指定討論者として、以下の視点を設定し問題の焦点化を図った。

水越敏行氏(大阪大学名誉教授)は「国際状況の視点から」、フィンランドと韓国のICT活用の現状を報告し、決して我が国の利活用が劣っているわけではないこと。中川一史氏(放送大学)は「国内状況の視点から」、学習環境は確かに多様化しているが、それらを生かすには教師のスキルアップが必要であること。村井万寿夫氏(金沢星稜大学)は「フューチャースクールの視点」(全児童が一人一台のコンピュータを持つことによる学習効果の実験校)から、学習状況に応じた多様なICT活用について、実証研究をさらに推進する必要があることが強調された。

祭日にもかかわらず約40名を超える研究者・現職教員・学生の参加があった。



岡部 昌樹 (金沢星稜大学)

日韓デジタル教科書ラウンドテーブルの実施報告

1. 開催日時 2010年3月8日(火)
2. 開催場所 関西大学ミューズキャンパス
3. 実施報告

本学会が後援した「日韓デジタル教科書ラウンドテーブル」が、3月8日に関西大学ミューズキャンパスで開催された。会議は、韓国からクォン・スンホー氏(漢陽大学教授)、KERIS(韓国教育研究情報サービス)からリー・キューサンン研究員、デジタル教科書を開発しているHANCOMソフトウェアからキム研究員を招き、日本側からは齋藤晴加氏(文部科学省生涯学習政策局参事官)、中川一史氏(放送教育大学教授)、黒上晴夫氏(関西大学教授)、久保田真弓氏(関西大学教授)、黒川弘一氏(光村図書出版株式会社)、大久保昇氏(株式会社内田洋行)の参加を得て、両国のデジタル教科書に関する最新の情報が交換された。

韓国の状況については、各種レポートがすでに行われているが、教科書開発に関わるコンセプトが明確に示される一方、その方向性に対する批判的な検討も行われ、日韓両国の状況やデジタル教科書の位置づけ等について従来にない密な議論ができた。参加者からも、教科書の仕様等に関わる専門的な質問やコメントが寄せられ、大変満足度の高い会議になった。



黒上 晴夫 (関西大学)

平成23年度 日本教育メディア学会第1回研究会のお知らせと投稿募集

1. タイトル 日本教育メディア学会第1回研究会
2. テーマ 子どもとメディア環境
子どもたちが学校や家庭で利用する情報機器に注目が寄せられています。児童が授業で利用するタブレットパソコンや iPod などが整備・導入され、その活用効果の報告も見られるなど、子どもたちを取り巻くメディア環境は急速に変化しています。そこで、今回は子どもとメディア環境に関する実証研究や調査データに基づく研究、諸外国における動向の研究などを広く募集します。また、教育メディア研究一般に関する報告も広く募集します。
3. 開催日時 平成23年5月28日(土) 13:00~16:45(受付12:30~)
4. 開催場所 園田学園女子大学30周年記念館4階 情報教育センター
5. 内 容
課題研究発表, 自由研究発表, パネルディスカッション

(1) 課題研究発表

- ・子どもとメディア環境についての研究発表を行う。発表者は会員・非会員を問わない。
- ・4～5件程度の発表を募集する。

(2)自由研究発表

- ・自由研究発表を行う。発表者は会員・非会員を問わない。
- ・4～5件程度の発表を募集する。

(3)パネルディスカッション

- ・現在および近未来の子どもとメディア環境について討論する。

6. 参加申込み

参加費 1,000 円 (資料代)

本研究会への参加を希望される方は、以下①から⑤を明記の上、会場担当者（堀田 博史 hotta@sonoda-u.ac.jp）まで下記の4点を記入の上、お申し込みください。

- ①氏名, ②所属, ③連絡先 (メールアドレスまたは電話番号), ④当日発表の有無, ⑤懇親会参加・不参加 (会場周辺にて研究会終了後に開催。参加費用約 5,000 円の予定)

7. 発表申し込み及び原稿送付締切日

(1)発表申込・締切日

平成 23 年 4 月 17 日 (日)

発表申込: 氏名, 所属, 発表タイトルを会場担当者 (堀田 博史 hotta@sonoda-u.ac.jp) までメールでお送りください。

※日本教育メディア学会会員でなくとも発表できます。

(2)原稿締切日及び原稿執筆要項

- ・平成 23 年 5 月 5 日(木)締め切り厳守
- ・原稿執筆要綱: 原稿は論文集にまとめます。ワード形式・PDF形式, 両方の原稿をメールで送付してください。

B5 版 1 行 20 字×40 行×2 段組, 枚数は 4,6,8 頁のいずれか。余白は, 左右=20mm・上下=23mm。

字体は明朝体 9 ポイント和文と英文の表題・名前・所属, 要約, キーワード(5 個以内)

(<http://jaems.jp/contents/kenkyukai/>) から研究会用の論文フォーマットがダウンロードできます。

見本として, 本学会通信 8 ページ目を参照して下さい。

8. 会場担当者

堀田 博史 (園田学園女子大学)

E-mail hotta@sonoda-u.ac.jp

※掲載論文の著作権について

- (1)教育メディア研究, 研究会論集, 年次大会発表論文集など, 本学会の出版物に掲載された論文等 (以下, 論文という) の著作権は, 本学会に帰属します。また, 本学会は論文を学会が作成する Web サイトおよび CD-ROM 等へ掲載, 国立情報学研究所がサービスする論文データベース・サービス CiNii (NII 論文情報ナビゲータ) に提供することがありますので, あらかじめご了解ください。
- (2)論文について, 著者自身による教育目的での利用 (著者自身による著作物への転載, Web サイトへの掲載, 複写による配布等を含む) は, 本学会に許諾申請をする必要はありません。ただし, 出典(論文題目, 論文誌名, 巻号ページ, 出版年等)を記載するようにしてください。

International Conference for Media in Education 2011 のご案内

1. 開催日時 2011 年 8 月 26 日~8 月 28 日

2. 開催場所 韓国 Sungkyunkwan University International Hall

3. 論文締め切り

- ・プロポーザル提出締め切り 2011年5月30日 (受理通知 2011年6月27日)
 ※A4, 1枚 フォーマット (<http://jaems.jp/contents/ICoME/submitform.pdf>)
- ・Extended Abstract 提出締め切り 2011年7月25日
 ※コンカレントセッション A4, 3~4枚
 ※ラウンドテーブル A4, 2~3枚

投稿規程などに関する詳しい情報は、下記の URL をご覧ください。

- ・投稿規程 <http://jaems.jp/contents/ICoME/come2011.pdf>
- ・ICoME journal <http://jaems.jp/contents/ICoME/comej/comej.html>

4. 投稿 URL

ICoME2011 の Web ページ(<http://jaems.jp/contents/ICoME/submit.html>) にアクセスして頂き、氏名、所属、E-mail アドレス、発表タイトル、キーワードを記入の上、プロポーザルを添付して締め切り日までに投稿して下さい。

日本教育メディア学会 第18回年次大会のご案内

- 1. 開催期日 2011年11月5日(土)~6日(日)
- 2. 開催場所 国際基督教大学 (International Christian University) ダイアログハウス
 〒181-8585 東京都三鷹市大沢3-10-2
 FAX 0422-33-3779
 URL <http://subsite.icu.ac.jp/iers>

3. 開催スケジュール (予定)

5日		6日	
9:30~	受付開始	9:00~	受付
10:00~12:00	一般研究発表/国際セッション	9:30~11:30	一般研究発表/国際セッション
12:00~13:30	昼食	11:30~13:00	昼食
13:30~14:20	総会	13:00~13:50	基調講演 (韓国より招聘)
14:40~15:30	基調講演	14:00~16:00	パネルディスカッション
15:40~17:40	課題研究発表		
18:00~19:30	懇親会 (ICU ダイニングホール)		

4. 原稿締め切り

(1) 課題研究

アブストラクト 2011年8月5日(金)

原稿 2011年9月2日(金)

(2) 一般研究

原稿 2011年9月2日(金)

5. 参加について

- 一般会員 5,000円 (事前参加申し込み) / 6,000円 (当日参加)
- 学生会員 3,000円 (事前参加申し込み) / 4,000円 (当日参加)
- 非会員 6,000円 (事前参加申し込み) / 7,000円 (当日参加)
- 地域教員 2,000円

※ 事前参加申し込み 9月30日(金) まで

6. 懇親会

- 懇親会 5,000円 (一般会員・非会員) / 3,000円 (学生)

7. 大会事務局

国際教育研究サービス(IERS)

担当 Ms. Mieko Sato

E-mail iers@icu.ac.jp

教育メディア研究 投稿論文募集のご案内

教育メディア研究 18 巻 1 号は、日本教育メディア学会が発行している論文集です。投稿規程及び原稿執筆を参照のうえ、奮ってご投稿下さい。

(1) 教育メディア研究の査読日程予定 (2010 年 2 月現在)

2011 年 7 月末	原稿受付締め切り
9 月初旬	第 1 回査読
9 月中旬	第 1 回査読結果返送
10 月中旬	改訂原稿締め切り
11 月中旬	第 2 回査読
11 月下旬	第 2 回査読結果返送
12 月中旬	改訂原稿締め切り
2012 年 1 月中旬	発行

※2 月現在での予定であり、変更の可能性があります。

(2) 論文投稿の仕方

日本教育メディア学会の論文投稿規程、提出方法については改訂中です。電子メールにより投稿して頂けますので事前に (submit@jaems.jp) までお問い合わせ下さい。

(3) お問い合わせ先

日本教育メディア学会 事務局
〒569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町 2-1-1
関西大学総合情報学部 メディアミックス研究室
電話・FAX (072) 690-2419 (直通)
E-mail office@jaems.jp
論文投稿お問い合わせ submit@jaems.jp

新入会員, 退会会員

<新入会員>

正会員

近藤 尚

鳥越 和貴

藤井 玲子

安部 由美子

<退会者>

古田 晋行

狩山 貢治

池西 孝仁

長谷川 卓司

近江 玲

会員総数 366 名・7 団体

会員 312 名 学生会員 55 名

団体会員 7 団体 購読会員 12 団体

(平成 23 年 4 月 1 日現在)

学会費納入のお願い

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日)、2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)の年会費7,000円(学生会員4,000円 ※博士課程後期課程に在籍の方は、正会員となります)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくか、郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて、納入いただくようお願いいたします。

なお、前年度までの会費が未納の方は、振込者名の後ろに年度を付加してお振り込みいただくか、郵便振替用紙に年度を明記の上、合わせて納入をお願いします。

<送金先>

(1) りそな銀行
店名：千里中央支店
預金種目：普通
口座番号：0124720
口座名：日本教育メディア学会
(ニホキョウイクメディアガクカイ)

(2) ゆうちょ銀行
口座番号：14160-8658501
口座名：日本教育メディア学会
(ニホキョウイクメディアガクカイ)

(銀行からの振込の場合)
銀行名：ゆうちょ銀行
店名：四一八店(ヨンイチハチテン)
店番：418
預金種目：普通
口座番号：0865850

※他行からゆうちょ銀行への振り込みの店番・口座番号は、418-0865850です。

※現金でゆうちょ口座へ振り込みを行う際は、電信振込み請求書・電信振替請求書をご利用ください(手数料525円が必要になります)。

※郵便貯金口座を持っている人は、ATMを使ってのお振込が可能です(その際、手数料は無料です)。

その他、ご不明な点がございましたら、本学会のWebページの「入金口座について」をご参照ください(<http://jaems.jp/contents/admission/account.htm>)。

所属変更や会員種別変更のお願い

新しい年度になり、所属の変更や移動による住所変更等ございましたら、下記に記載しているメディア学会事務局までご連絡お願い致します。

◇日本教育メディア学会 事務局◇	
〒569-1095	大阪府高槻市霊仙寺町2-1-1 関西大学大学院 メディアミックス研究室内
電話.FAX	072-690-2419 (久保田・黒上研究室)
学会ホームページURL	http://jaems.jp/
E-mail	office@jaems.jp

(平成23年4月3日現在)